



自分にとって科学・研究とは？

佐賀大学の富永昌人先生よりバトンを引き継ぎました福井県立大学生物資源学部の植松宏平と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。富永先生には、本会また他の学会等において非常にお世話になっており、いつも温かなご指導を頂いております。この度はリレーエッセイ執筆のお話を頂きまして、ありがとうございました。ただバトンを有難く頂戴したものの、正直な話、私のような未熟な研究者に、有益あるいは面白いエッセイを書く能力はございません。しかし、このような私でも(話は大きく変わるのですが)、2020年にオンラインで開催された分析年会においては、若手関連企画のお手伝いをさせて頂き、最低限の仕事を果たすことができました。これは一重にご支援・ご指導頂いた分析化学会の皆様のおかげであり、本当に温かいご支援を頂いたことを強く実感しております。そこで、今回のエッセイでは、逆に、会員の皆様に「植松宏平」を都合よく使っていただこうと(極めて八方美人なこじつけですが)、自己紹介も兼ねて、私の中で非常に大事なテーマである「自分にとって科学・研究とは？」について、思っていることを書いてみたいと思います。おそらく、会員の皆様も、このテーマは大なり小なり考えるテーマであり、考えないという選択肢も含めて、その人の研究スタイルや研究テーマ、また生き方にも深く影響を及ぼしているものと考えます。

まず初めに、私にとって「科学・研究とは？」という問いがなぜ大事なのか？ について書きます。これは、卒業研究から研究を始めて20年程立ちますが、「凡人の私が研究をするためには、研究に多大な時間と労力をかける必要がある。」との思いが年を重ねるごとに強くなるからでございます。しかし、この自明な答えを認識したとしても、実際の研究生活はどうかといいますと、雑念と欲、虚栄心、怠惰の心、傲慢さ、意志の弱さなどで、十分に質の高い研究生活を送れているかということには疑問がございます。そのもっとも大きな原因は、研究に対する未熟な従属的姿勢によるかと推測しておりますが、一方で完全な能動的姿勢、つまり囚われない自由な境地で、最大限の集中力をもって、バランスよく徹底的に研究に励むという理想は捨てられません。その達成の為には、私の場合では「自分にとって科学・研究とは？」に対する十分な考えと、研究を含めたすべての外的・内的事象に対する心の在り方の成熟、この二者が必要であるとの考えがあり、そこでこのテーマの重要性を感じるわけでございます。

「自分にとって科学・研究とは？」との問いに対する私の答え…、これは未熟な研究者である私の考えです。よって、その内容は何も特別なものであるはずがなく、また誰も関心を持たないことだと思っておりますので、ここで書くことは控えたいと思います。ただ、私の感じていることは、これも当たり前のことなのですが、その科学・研究について出した自分の答え(私にとってそれは科



解説

私の住居から見える福井県の山、経ヶ岳(おそらくです)。非常に美しい山ですが、鉄塔に遮られており、その美しさを十分に堪能できません。

学・研究に対する理想となるのですが)、その答え(理想)の現実化を「では、どれくらいの本気度・熱意で求めているのか？」という新たな問いを生じさせます(新たなではなく、戻っただけとも取れますが)。この新たな問いに、意欲的に取り組むためには、やはり自分の心を純化させ、外的・内的事象に対する心の在り方を成熟させることが必須であるように思います。自分の心を純化・成熟させた分だけ、科学・研究に魅了され、その思いも進化・深化させられるのではないかと想像しております。しかし、ここに書いた科学・研究に対する憧憬は、私の現在の非常に恵まれた環境(例えば、任期つきでない職など)によって可能という、複雑な思いも引き起こします。

いずれにしても、こんなリレーエッセイを書く私です。もうすでにお気づきの方もいらっしゃると思いますが、「細かいことでもかなりゴチャゴチャ言う面倒な人」というのが、的確な一つの私の評価であり、実際に妻からの私に向けられる怒りの大半の理由がこれに収まるかと思っております。こんな私でも、使っていただけると幸いです。今後とも、分析化学会の皆様より、ご指導ご鞭撻頂けますと、大変ありがたく存じます。

つつい駄文を長々と書いてしまいました。私のつまらない話は終わりにし、次は私の尊敬する先生、信州大学の巽広輔先生にバトンをつなげたいと存じます。巽先生にも本会、また他の学会において非常にお世話になっており、温かなご指導を頂いております。この度はお忙しい中にもかかわらず、リレーエッセイ執筆を快くお引き受けいただきまして誠にありがとうございました。それでは、巽先生、よろしくお願いいたします。

〔福井県立大学生物資源学部 植松宏平〕